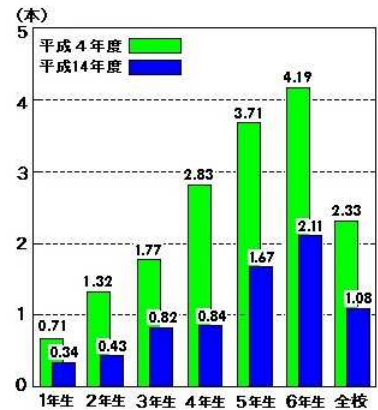


フッ化物洗口、その虫歯予防効果の疑問。

霧島市は平成 27 年度から小学校フッ化物洗口を開始しました。安全でむし歯予防効果が高いという理由です。根拠は厚労省が発行したガイドラインです。霧島市内の小学生の虫歯は平均 1 本、半数以上がむし歯ゼロです。フッ化物洗口はむし歯の治療効果を期待するものではなく、むし歯の予防だそうです。フッ化物洗口を実施している学校と実施していない学校でこの半数以上のむし歯のない児童数がどのような変化するかを調べれば効果の判定は出来ますが、霧島市は既に効果があることは実証済みであるから、効果検証はしないと言います。

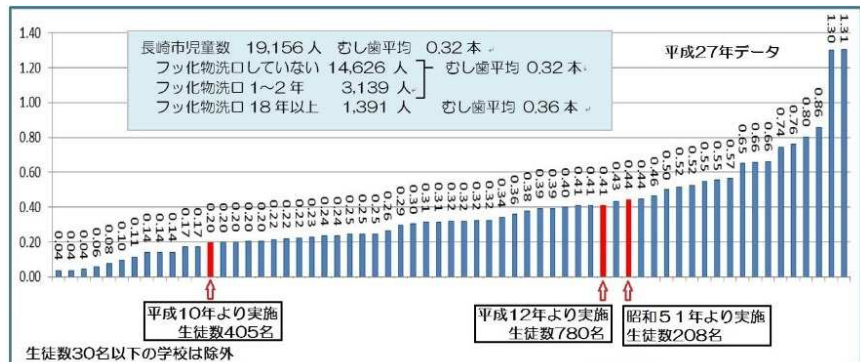
以下、フッ化物洗口の効果が疑わしい資料を紹介します。

- 平成 15 年 12 月 14 日、佐賀新聞に掲載された佐賀県歯科医師会の全面宣伝広告です。佐賀県はフッ化物洗口の実施率が突出して高い県です。有明西小学校でフッ化物洗口を実施している。平成 4 年と平成 14 年を比較した結果一人平均のむし歯数が半分になりましたという内容です。文科省の学校保健統計調査でフッ素のうがいをしていない都道府県でも同様にむし歯減少の結果が公表されています。虫歯の減少は幼稚園、保育園、学校現場での歯磨き指導の効果であるという考えの方が説得力があります。



- 長崎市の事例です。

赤い線が 18 年以上実施校、青い線は実施していない学校です。フッ化物洗口の効果があるとすれば、赤の学校は左側に寄るはずですがそのような結果は得られていません。よってフッ化物洗口の効果があるとは言えません。



- 都道府県別のむし歯保有率です。佐賀県、秋田県、新潟県がフッ化物洗口の実施率が突出しています。ところが殆どフッ化物洗口を実施していない広島、神奈川、東京の子ども達のむし歯は佐賀県、秋田県より少ないです。広島県の水道水と霧島市の水道水に含まれるフッ素の濃度は同じ程度です。

